

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成23年10月29日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3991200019		
法人名	社会福祉法人 香南会		
事業所名	グループホーム ゆうりこう		
所在地	高知県香美市土佐山田町百石町1丁目3-44		
自己評価作成日	平成23年8月27日	評価結果 市町村受理日	平成23年11月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所は住宅地の中にあり、近隣には商店や美容室などがあり利便性に恵まれている。また、地域には医療機関が多く、状況に応じて早期受診ができる環境が整っている。事業所においても入居者の医療面や健康面の支援に重きを置いており、協力医による定期的な訪問診察や訪問看護ステーションの看護師に助言、指導をもらうなど、連携を密にしている。また、入居者に安心して生活してもらうため、グループホームでの生活が困難になった場合には、家族等の希望に沿って、法人の介護保険施設等でのサービスが利用できるよう支援していく体制を整えている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai gokouhyou.jp/kai gosip/infomationPublic.do?JGD=3991200019&SCD=320&PGD=39
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	高知県社会福祉協議会
所在地	〒780-8567 高知県高知市朝倉戊375-1 高知県立ふくし交流プラザ
訪問調査日	平成23年10月18日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は主要道路から一区画入った住宅地にあり、敷地もゆったりしており、ベンチで日光浴をしたり、車椅子の利用者も安心して外気に触れる環境が整っている。町内会の区画は広いため、近所づきあいは主に7~8世帯の班組織で行われており、地域に溶け込むことができている。行事に合わせて家族会を開催しており、利用者と一緒に過ごしたり、家族同士の懇談の場となっている。また、法人系列の介護保険施設や協力医療機関との連携体制も整っており、利用者、家族の安心と信頼を得ている。

自己評価および外部評価結果

ユニット名: 2ユニット共通

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念は、入居者が住み慣れた地域で、家族や知人、近所の方々と交流しながら、穏やかに安心して暮らしてもらうことを目指しており、職員全員で共有し、実践している。	利用者の笑顔を大切に、皆で一緒に共に楽しく、安らぎのある暮らしを目指す理念を作成している。職員異動時には理念を周知するとともに、職員会等でケアを振り返り、管理者から支援の工夫を投げかけるなどして取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	回覧板を隣家に回したり、地域の催事の飾りつけ、近隣の美容室、郵便局、ホームセンターなどの利用を通して近所の方々と触れ合う機会を多く持つようにしている。また、夏祭りの見学や地元の保育園児の訪問を受けるなどして交流している。	保育園児と交流したり、散歩がてら近隣のホームセンターで花を觀賞している。地域の夏祭りの際は敷地内での踊り披露も定着している。また、地域住民から野菜や花などのお裾分けがあるほか、町内会の班組織の一員として日頃から近所づきあいをしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	市社協の高齢者部会視察研修を受け入れ、認知症に関する理解や支援方法、グループホームについて説明をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2カ月に1回実施している。取り組み内容を報告し、出席者から意見や助言を受けてサービスに反映させている。	利用者の状況や活動について報告し、参加委員から意見等が出され、双方向的な会議となっている。家族代表の委員は家族会の役職として選ばれ、地域の代表も近隣住民の中から毎年交替で参加してもらうなど、協力を得ている。	評価で明らかになった課題について議題にあげ、折をみて経過を報告するなど、運営推進会議での話し合いを通してサービス向上に活かしていく取り組みを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者や地域包括支援センターの職員とも良好な関係であり、日頃から気軽に相談や情報交換をしている。	運営推進会議を通して事業所の現状を理解してもらったり、制度の運用面で疑問等があればその都度相談している。また、地域包括支援センターとは入居希望者に関する情報を共有している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内研修に参加するとともに、職員会などで話し合い、職員全員に周知している。日中は玄関の施錠は行わず、自由な暮らしを支援している。	法人が行う尊厳に関する研修に参加し、伝達講習を通して身体拘束に関する職員の理解を図っている。外出の傾向や願望のある利用者を把握しており、散歩に同行したり、ぬり絵や家事の分担をしてもらうなど個々に対応している。利用者が一時所在不明になった事例があり、原因究明のほか定時の所在確認、地域の見守りへの協力依頼など、再発防止に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内研修のほか、外部の研修にもできる限り参加し、職員に周知しながら虐待防止に取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、制度を活用している事例がある。職員会などを通して学習し、必要な支援ができるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居申込時や契約時に契約内容や重要説明事項、方針等について説明し、理解と納得を得るようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者の言葉や表情、仕草や態度などからその思いや考えを汲み取り、入居者主体の運営を心がけている。また、家族会を年3回開催し、意見交換を行い、出された意見は職員間で共有し、日々のケアにつなげている。	行事に合わせて家族会を開催したり、面会時や電話等で家族と意思疎通を図っている。異動に伴う職員紹介などの意見が出されているが、意見箱も含め事業所に対する意見等は少ない。事業所からは毎月の事業所だよりで近況を報告するなど、情報の共有に積極的に取り組んでいる。	家族は身内が世話になっていることから意見等を言い難いことを理解し、気軽に意見を出せる環境づくりや家族会と協働して意見を集約したり、運営推進会議で検討するなど、家族の思いを汲み上げる取り組みを期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会で提案や意見を聞いている。また、日頃からコミュニケーションを積極的に図り、意見が出やすい環境づくりに努めている。意見等は全員で検討し、運営に反映させている。	職員会や日頃のミーティングを通して職員の意見や提案を聞いている。加湿器の買い替えや車椅子用の体重測定器など、法人に相談しながら運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一人ひとりと個別に話し合い、悩みなどの相談に応じるとともに、年休取得や休憩時間の確保など、働きやすい環境づくりに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修情報を職員全員で共有し、法人内外の研修会に積極的に参加するようにしている。また、入居者との関わりの中で学ぶことも多くある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内のグループホームとの交流や同業者との情報交換を通してサービスの質の向上に努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には可能な限り見学してもらうとともに、必ず本人と面談し、心身の状態の把握や本人の思いを汲み取り、不安等の解消に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に家族と面談し、これまでの生活や申し込みに至る経緯、困っていることや要望、不安なことなどを傾聴し、信頼関係を築いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	早急な対応が必要な入居相談を受けた際には、法人内外の関係機関や介護支援専門員や相談員との連絡も随時行い、状況に応じた対応を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、入居者の喜びや不安等を知り、理解や共感する姿勢を大切にするとともに、料理や裁縫、掃除の仕方や畑仕事などの生活の知恵を入居者から教えてもらうなど、共に暮らす者同士の関係を築いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	通院や面会時等に、日頃の本人の健康状態や生活の様子について報告し、共有しながら共に支え合っていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔から利用している美容室に通ったり、知人や友人の訪問、家族との外出などの機会を通して、これまでの関係が継続するよう支援している。	知人、友人の訪問を受けたり、馴染みの喫茶店と一緒にいる。また、家族の協力を得て行きつけの美容院に行ったり、地域の敬老会や親戚の祝い事などに参加している。なお、自宅などふるさと訪問は利用者の状態等をみながら見合わせている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士人間関係を把握し、良好な関係や支え合いに向けて働きかけるとともに、心身の状態やその日の気分に応じて見守りや声かけをしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	気軽に事業所を訪れてもらうことや、いつでも相談してもらうよう伝え、必要に応じた支援をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、会話や表情、行動などを通して希望や意向を把握している。また、家族の意向も聞きながら本人本位に検討している。	入居時のアセスメントや現在の身体状況等を踏まえ、日頃の利用者との会話や表情、素振りなどから一人ひとりの暮らし方の希望や思いを把握している。困難な場合は家族に相談したり思いを推察するようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の聞き取りのほか、入居後も本人とのコミュニケーションを通して生活歴を把握している。また、家族や親類、従来のサービス提供関係者などからもこれまでの生活環境を聞いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者一人ひとりの生活リズムを大切にしながら日々の些細な変化にも注意し、心身の状態やできることなど、現状について総合的に把握するようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の意見も取り入れながら、記録や職員の意見も参考にしてカンファレンスを行い、入居者の現状に合わせた介護計画を作成している。	利用者の現状や家族の意向を確認しながら、3カ月又は6カ月を基本として介護計画を作成している。記録や職員の気づきなどをもとに、3カ月毎に計画作成担当者がモニタリングを行い、カンファレンスを経て計画を見直している。介護計画を郵送する場合は、面会時や電話で説明している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	食事や排泄、身体状況、日々の暮らしの様子や話していることなどを個別に記録している。また、出勤時に申し送りノートを活用し、職員間で情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に応じて、通院支援など柔軟に対応している。また、医療連携体制を整え、本人、家族に安心と信頼を得るよう取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣住民や美容室、ホームセンター等との関わりや、保育所、中学校との交流の呼びかけ、総合避難訓練や普通救命講習を通して地域の消防署との協力関係を築くなど、入居者が安心して心豊かに暮らせるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族が希望するかかりつけ医で受診できるようにしている。通院時は家族の同伴を基本としているが、都合がつかない場合は職員が付き添っている毎月、協力医の往診があり、適切な医療を受けられるようにしている。	従来から協力医がかかりつけ医であったり、入居時に協力医に変更した場合は、月2回の往診を受けている。従来のかかりつけ医を希望し、受診している場合もあり、通院介助は家族対応を基本としている。受診結果は家族と連絡を取り合ったり、職員間は申し送りノートで共有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者の体調等に変化が見られた時は、訪問看護師と随時連絡をとり、指導、助言を得ながら対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合は、家族との情報共有を図りながら、主治医や看護師、医療相談員との関係を築き、早期退院に向けて相談している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した際の指針や看取り介護に関するマニュアルを作成している。入居時に本人、家族に説明して了承を得ている。また、協力医やかかりつけ医、訪問看護師との連携体制を整えている。	入居時に、重度化や看取りの指針を説明し、家族の同意を得ている。また、利用者の状態等に応じてその時点の家族の意向を確認している。事業所では利用者、家族が納得した最期を迎えられるよう、主治医や看護師と連携して支援していく体制を整えている。医療機関や老人保健施設に移った場合も見舞いに行くなど援助している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の指導で、普通救命講習Ⅱ(AED使用)を受講している。また、応急手当の学習も随時行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て、入居者や地域住民の方と一緒に通報・避難・消火訓練を年2回行っている。また、緊急連絡網を使用した夜間連絡訓練も年2回行っている。	年に2回、消火訓練や緊急連絡訓練を実施している。消火訓練の際には消防署の指導を得るとともに、1～2名の地域住民も参加している。災害に備えた非常用の食料品の準備もしており、保存期限に沿って更新もしている。	災害時には地域の協力が欠かせないので、防災関連の地域資源を再確認するとともに、運営推進会議でも地域ぐるみの防災体制の整備について話し合うことを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者や家族のプライバシーの保護の徹底について、職員会で話し合い、職員への周知徹底をしている。	排泄や入浴介助の場面で、声かけや対応、利用者の意向を尊重した同性介助などに配慮している。個人情報の保護については書類の管理や外部に情報を漏らさないよう職員に徹底している。ポータブルトイレを使用しない時はベランダに出したり、被いをかけるなどしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の関わりの中で、本人に希望を言ってもらったり、職員の声かけに対する表情や行動などのサインを通して自分で決定してもらう場面をつくっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の関わりの中で、本人の生活のペースを大切に、会話や行動、表情から思いを汲み取り、ぬり絵やパズル、家事や野菜の栽培など、その人らしい暮らしができるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々の生活習慣に合わせ、化粧をしたり、外出時や行事に合わせた衣類選び、希望する美容室で染髪したりパーマをかけるなど、おしゃれを楽しんでもらうよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者と職員と一緒に野菜を栽培し、食卓にあげたり、下ごしらえや調理、食事の準備や後片づけを行い、食事を楽しめるよう支援している。	法人の管理栄養士が作成した献立をもとに、野菜の収穫や差し入れに応じてアレンジしている。利用者の能力に応じて皮剥ぎや筋取りなどの下ごしらえや片づけをしている。職員はさりげなく介助しながら楽しく食事ができるよう見守っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量やカロリー、水分量を記録し、摂取量が少ない時には、声かけや促し、好みの物を出したり、食事形態の工夫などを行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に歯磨きやうがい、義歯洗浄の声かけをしている。必要に応じて歯磨きや義歯洗浄などの介助を行い、口腔内の清潔保持をしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、トイレで気持ちよく排泄ができるよう個々に合わせた声かけや誘導支援をしている。また、同性介助などの配慮もしている。	利用者の排泄パターンを把握し、できるだけトイレで排泄するよう声かけや誘導をしている。排泄用品は利用者の状況に応じたものを使用しており、失敗を少なくしたり、排泄行為の改善に向けて取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表で排便状態を確認している。状態に応じて水分摂取や野菜の摂取などの支援をしている。また、体操等で身体を動かす機会を多くとるようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の希望する時間(午前中)に入浴したり、好みのシャンプー等を使用するなど、一人ひとりの気持ちや習慣に合わせた支援をしている。	入浴時間は午後の時間帯を基本としているが、午前中でも入浴希望があれば柔軟に対応している。殆どの利用者は2日毎に入浴している。拒否がある場合は強要することなく、職員が交替したり、家族の協力も得ながら支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	できる範囲で日中の活動を促し、生活リズムを整え、安眠につながるよう支援している。また、一人ひとりの体調や希望に沿って、日中でも安静時間をとるなどの支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を個別に管理し、職員がいつでも入居者個々の服薬情報を確認できるようにしている。また、薬や用量などに変更があれば申し送りノートで共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々のできることや好きな作業等を見出し、職員と一緒に作業をしたり、収穫した野菜を使った食事作りなど、入居者の経験や知識が発揮できるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	本人の体調を見ながら希望に応じ、散歩やドライブ等に出かけている。畑を見に行ったり、庭で日光浴をすることもある。	日常的に事業所周辺を個々に応じた時間内で散歩したり、希望に応じて少人数で買物に出かけている。外に出たがらない場合もあるが、敷地内で外気に触れる機会を設けている。また、年2回は全員で遠足に行ったり、個別対応で花見や紅葉狩り、海を見に行くなどの支援をしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には家族や事業所で管理をしている。買物や外出時には本人が支払いができるよう支援している。また、家族の協力を得て、少額の金額を自身で管理している方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や友人にいつでも電話で話せる雰囲気をつくっている。また、1階のせせらぎ棟には公衆電話を設置し、入居者本人がいつでも電話ができるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じてもらえるように、季節の花や大きなカレンダーをかけている。食堂や廊下、階段の飾りは職員と入居者が一緒に作成した作品を飾ったり、絵画や観葉植物などで居心地のよい雰囲気となるように配慮している。	食堂や居間、廊下はゆったりしており、利用者は畳の座やソファ、食卓などで思い思いにくつろいでいる。季節の花を活け季節感を採り入れたり、手作りの干支飾りや絵画、観葉植物を置くなど、落ち着いた雰囲気となるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関ホールや階段の踊り場に椅子を置き、仲の良い入居者同士で会話したり、独りでゆっくり過ごせる居場所となるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れた物や好みの物を持参してもらうように説明をしている。また、本人と家族が相談しながら居心地の良い居室となるよう工夫している。	居室には、タンスや衣装ケース、衣類かけ、机や椅子、ベンチのほか、テレビや冷蔵庫、鏡台や化粧品、家族写真やぬいぐるみなどを持ち込み、利用者それぞれ個性のある居住空間となっている。家族と相談してレイアウトを替えたり、体格に応じてベッドに替えて床にマットを敷くなどしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に作業ができるようにソファやテーブルの配置に工夫をしている。また、その方の能力に合わせた道具(箒や塵取り、洗濯ハンガーなど)を使用している。		

ユニット名:

やまびこ

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない